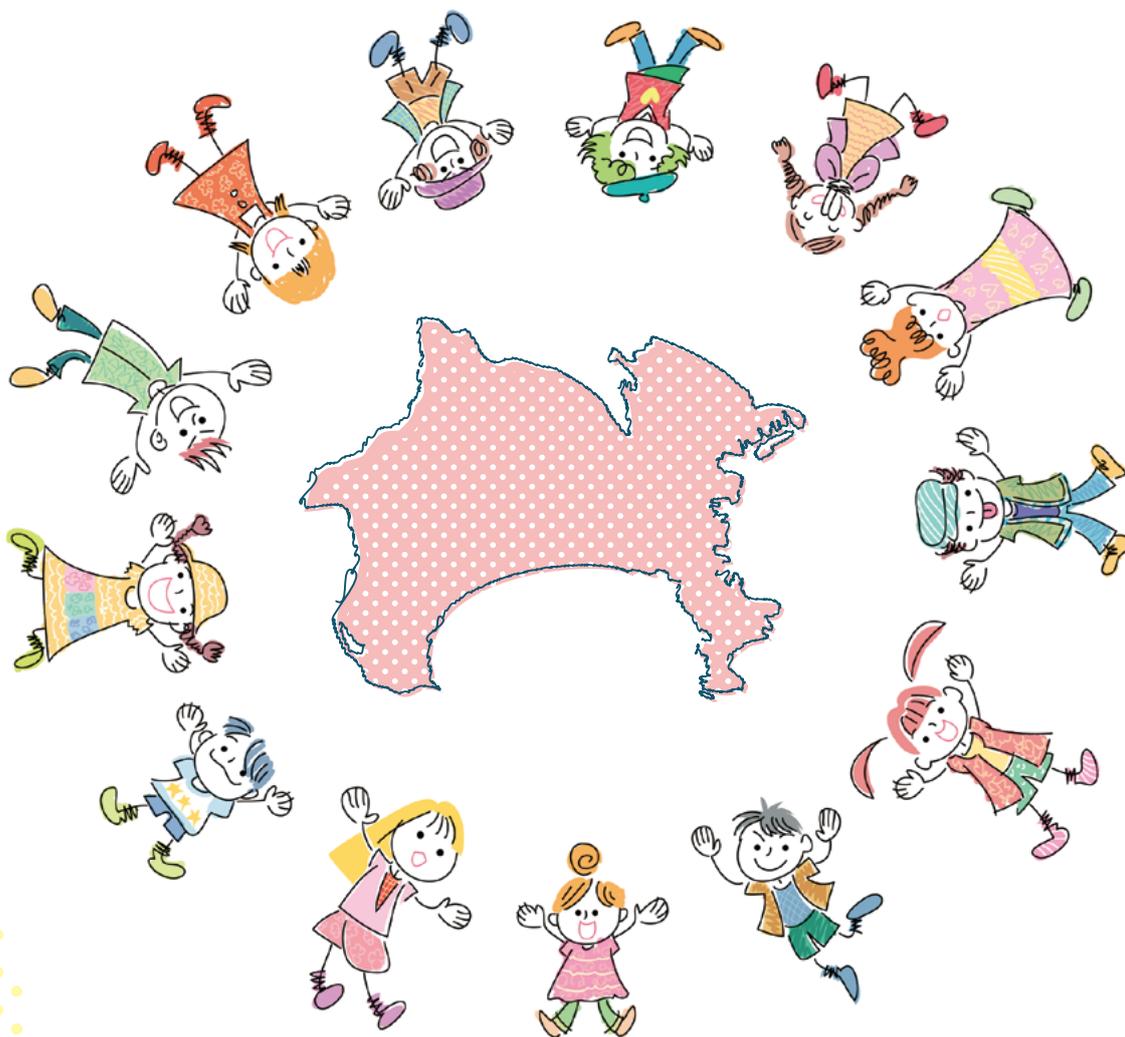


私たちは

地域の「子育て応援団」です

児童委員、主任児童委員活動から



令和3年2月

社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会
民生委員児童委員部会

目次

はじめに	2
児童委員・主任児童委員は地域の身近な「子育て応援団」です	3
活動事例	
■ 町内会館に子どもの居場所を作ろう! (横浜市港北区師岡地区)	4
■ 手さぐりで始めた「宮上学習室」(相模原市緑区橋本地区)	5
■ 小学生の登下校時のあいさつ運動でできた人とのつながり (茅ヶ崎市茅ヶ崎南地区)	6
■ 子育てサロン お友だち作りの輪! (川崎市麻生区柿生第3地区)	7
■ オレンジリボンで児童虐待防止を呼びかけて (横浜市主任児童委員連絡会)	8
■ ゆかいなコンサート (川崎市川崎区主任児童委員部会)	9
■ 小学校の登下校見守り隊 (相模原市緑区城山地区)	10
■ 子どもたちとの楽しい交流「ざま遊友クラブ」(座間市第六地区)	11
■ 子どもたちの居場所を作りたい・「ふりーサロン5(ファイブ)」の取り組み(横浜市西区第五地区)	12
■ 子どもの居場所 楽しくキッズ(相模原市南区相模台地区)	13
■ 作って遊ぼう「伝承あそび」(大和市南林間地区)	14
■ 子育てサロン「バンビひろば」(川崎市幸区御幸西第1地区)	15
■ 地域福祉を支えるジュニアボランティア(横浜市旭区川井地区)	16
■ ボランティアスクール～青年ボランティアへ～(相模原市中央区横山地区)	17
■ お母さんたちと「絆づくり」(愛川町主任児童委員連絡会)	18
■ 子育てサロンでほっと一息しましょ!(川崎市中原区住吉第1地区)	19
■ 「中田子育てサロン」～ママたちの息抜き場～(横浜市泉区中田地区)	20
■ 地域みんなで見守る藤野の子どもたち(相模原市緑区藤野地区)	21
■ 子育てサロン「まなっこひろば」で遊ぼう(真鶴町)	22
■ 子育て支援は私たちも元気をもらいます(川崎市高津区橘第3地区)	23
■ オレンジリボンたすきリレー2019(横浜市主任児童委員連絡会)	24
■ 児童委員活動がつくる地域の子育ち・子育てを支える風土 高橋久雄氏((福)至誠学舎立川)	25
■ (表紙) お母さんにも子どもにも仲間を!(大和市下鶴間地区)	26
■ (表紙) いつもそばにいたいことを伝えたい(相模原市中央区光が丘地区)	28
子育て応援団 活動ポートレート	30

はじめに

児童委員・主任児童委員は
地域の身近な「子育て応援団」として日々活動しています。

地域の子どもたちが元気に笑顔で安心して暮らせるよう、
見守りや遊び場などでのパトロール、登下校時のあいさつ運動をしたり、
子育て中の親が孤立して悩みを抱え込まないように、
心配ごとの相談や仲間づくりができる子育てサロンを運営するなど、
地域の実情に合わせた子育て支援をしています。

令和2年度で児童委員制度は創設73年、主任児童委員が誕生して26年になりました。

児童虐待やいじめなど子どもをめぐる課題が複雑化・多様化している今日、
児童委員・主任児童委員は、地域のあらゆる関係機関・団体、そして地域住民の皆さまと、
より一層手を携え協力して、子どもたちを支援していくことが求められています。

県・政令市の民生委員児童委員協議会を構成員とする民生委員児童委員部会では、
児童委員・主任児童委員の役割や意義を再確認するとともに、
関係機関・団体の皆さまにも、児童委員、主任児童委員の存在や活動について
ご理解いただくきっかけとなるよう、この活動事例集をまとめました。

この活動事例集を手にとっていただいたすべての皆さまの
今後の活動の参考となれば幸いです。



※本冊子は、県社協の機関紙『福祉タイムズ』に掲載された記事をまとめたものです。
なお、事例執筆者の所属・役職は執筆当時のものです。

児童委員・主任児童委員は 地域の身近な「子育て応援団」です

📢 児童委員は子どもや子育て家庭の相談支援や地域づくりをします

- 児童委員は、地域の子どもや子育て家庭の生活を見守り、子どもや子育てに関わるさまざまな相談にのります。必要に応じて福祉や保健等に係る情報提供や支援をします。
- 子どもに関わる関係機関団体と連協・協働し、子どもの健やかな成長を応援する活動や地域づくりに努めます。
- 特に子どもに関係する活動を専任で行う児童委員を、主任児童委員といいます。
- 主任児童委員は、児童委員および学校や児童相談所などの関係機関・団体と連携し、子どもや子育て家庭の課題の把握をします。
- 地域の実情に応じて、地域ぐるみでの子育て支援活動の企画、協力、啓発などの活動を行います。



📢 児童委員は子どもとその家庭全体を見守ります

- 子どもが抱える課題は、子どもが育つ家庭環境に起因することも少なくありません。そのため、子どものみならず家庭全体への支援が欠かせません。
- 地域においてあらゆる世代や世帯の支援にあたっている民生委員が児童委員を兼ねることで、民生委員としての経験や思い、知識・技術や関係機関からの信頼をもって、複雑化・多様化している子どもやその家庭全体の課題に取り組むことができます。

📢 児童委員は法律に定められた安心して相談できる存在です

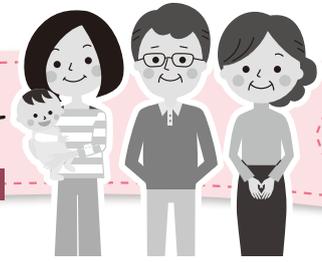
- 児童委員は、児童委員法に位置付けられています。主任児童委員は、子どもに関する活動を専任する児童委員です。
- 民生委員・児童委員は、厚生労働大臣から委嘱された非常勤特別職の地方公務員で、無償で活動しています。
- 民生委員・児童委員には守秘義務が課せられています。
- 全国に約23万人、神奈川県内には約1万1千人の民生委員・児童委員が活動しています。
- 都道府県・政令市からの指導を受けて活動するため、安心して相談できる存在です。



私たちは地域の「子育て応援団」です

～児童委員、主任児童委員活動から～

平成30年6月号より



町内会館に子どもの居場所を作ろう！

師岡町は港北区の中では小さな地域で、4600世帯、約1万人が住んでいます。住民が自由に集まれる場所に町内会館があり、ここを中心に会議やイベントが行われています。

今まで高齢者や幼児を対象とした活動は盛んに行われてきましたが、就学年齢に達した子どもたちを対象としたものはありませんでした。そのせいか、子どもに関する相談はほとんどありませんでしたが、最近では新たなマンションや住宅が増え、不登校や子どもの課題がちらほらと耳に入るようになってきました。

そこで主任児童委員と話し合いを重ね、地区社協の応援を得て「師岡こども学習会」が立ち上がりました。



先生が見ていてくれるので、頑張れる子どもたち

持参する学習課題を真剣に取り組んでいく



この学習会は指導を目的にするのではなく、子どもの普段の様子を知る機会にするために開催され、大学生にボランティアとして協力してもらい、みんなで楽しめる「みんなの時間」を

大切にしています。小学生を対象に毎月、第3日曜日の午後3時間を1時間ごとに分けて学習し、最後に「みんなの時間」の時間割で行っています。

「みんなの時間」はスライム作りのような実験や工作、また地域の郵便局長さんから郵便番号の役割のレクチャーを受けたあとにはがき作成を行うなど、いろいろなプログラムを行っています。

1月には、カルタ取りなどゲームの要素も取り入れてみました。どの回も好評です。



うまく弾むか！スーパーボール作りに夢中

この学習会は地区社協の協力を得ることで、担い手にも参加者にも新たな広がりが生まれました。居場所を作ることで、子供会や町会の役員、保護者との交流が生まれ、情報を広く得ることができるようになったと感じています。

まだ始めて1年しか経過していませんが、学習会を卒業した子どもたちが将来学生ボランティアとして参加してくれることを願って、継続していきたいと思います。

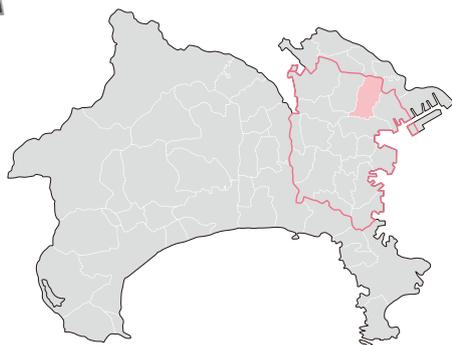
横浜市港北区師岡地区
民生委員児童委員協議会
副会長 今村 妙子

※令和2年6月30日付退任



地区の概況

横浜市 港北区 師岡地区



横浜市 港北区 師岡地区



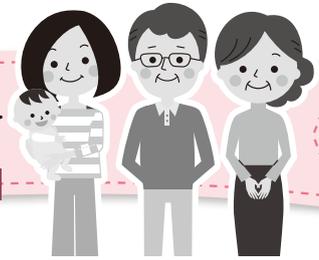
	人口	10,511人
	世帯数	4,852世帯
	子ども (15歳未満)	1,397人
	保育園・幼稚園	3園
	小学校	1校
	中学校	0校
	民生委員児童委員	16人
	うち主任児童委員	2人

(令和2年4月1日現在)

私たちは地域の「子育て応援団」です

～児童委員、主任児童委員活動から～

平成30年7月号より



みやかみ 手さぐりで始めた「宮上学習室」

2016年、夏休みに「宮上学習室」を始めました。宮上学習室は、無料の学習室です。

対象学年は、小学1年生～3年生で、現在30人程の登録があります。週2回、夕方5時15分～6時15分の1時間学習支援を行います。終わる時間が夕方なので、保護者のお迎えをお願いしています。

私の担当している橋本地区は、相模原市緑区の橋本駅周辺です。ここ数年の間に、高層マンションと戸建て住宅が増えた地区です。

私が無料の学習室を始めようと思ったのは、長く関わっている児童クラブでの子どもたちの様子を見ていて、授業のない夏休みは、1学期の復習をする大事な時だと感じたからです。

初めは、夏休みだけ学習支援をできないかと考えスタートしました。

場所は、児童クラブが隣接する宮上児童館を借りることができました。学習室の代表は、児童館長にお願いしました。

学習室に通う子どもたちを温かくサポートし



子どもたちが通いなれた児童館。子どもも親も安心！

てくれているのは、地域のボランティア、相模原市社協緑ボランティアセンターで募集したボランティア、男性ボランティアの会の方々です。

また、学習内容や学習室の参加者募集のお知らせ等は、学校と連携をとりながら、学習室でプリントを配布しています。時には読み聞かせや音読もしています。



子どもたちは自分のペースで勉強します。分かりにくいところがあれば、ボランティアが教えます。

始めた頃は夏休みの期間だけと考えていた学習室でしたが、保護者の方から継続希望もあり、現在も続けています。

1年半が過ぎ、子どもを迎えに来る保護者とも親しくなり、子育てに関する悩み等を相談されたり、こちらから声を掛けたりしています。地域の情報を知ることができる場が増えました。

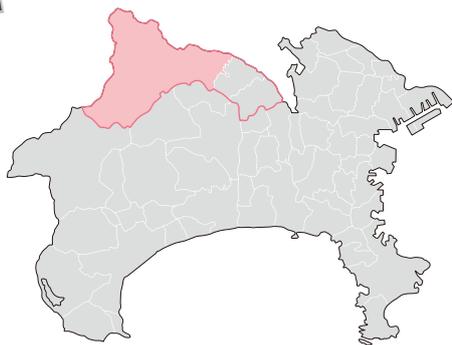
学習室を始めたことで子どもの顔なじみが増えたことが、何より嬉しいです。

相模原市緑区橋本地区
民生委員児童委員協議会
主任児童委員 馬場 真由美



地区の概況

相模原市 緑区 橋本地区



相模原市 緑区 橋本地区



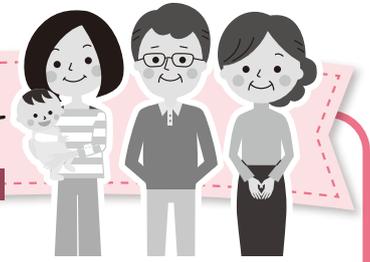
人口	72,036人
世帯数	34,531世帯
子ども（15歳未満）	8,829人
保育園・幼稚園	36園
小学校	5校
中学校	2校
民生委員児童委員	75人
うち主任児童委員	3人

(令和2年4月1日現在。民生委員児童委員数及び主任児童委員数は10月1日現在)

私たちは地域の「子育て応援団」です

～児童委員、主任児童委員活動から～

平成30年8月号より



小学生の登下校時のあいさつ運動でできた人とのつながり

「おはようございます」。私は茅ヶ崎南地区民生委員児童委員協議会（以下、民児協）の篠原と申します。

私たちの民児協では、14年前に児童委員として何が出来るか検討し、子どもたちに私たちの顔を覚えてもらえるようにと、まずは小学生の登下校時に、子どもの見守りを兼ねたあいさつ運動に取り組むことを決めました。



サザンビーチに向かう通りに面している小学校のため、登校時は駅に向かう通勤者と車で混み合い、小学生が安心して通学できるよう、気にかけてながら取り組んでいます

私は登校時に関わっているのですが、始めた頃は、子どもたちにあいさつをしても一方通行で、返ってくる声は多くはありませんでした。

そこで、子どもたちの元気な声を聴きたいと思い小学校の校長先生に相談をしたところ、校長先生が朝会で「地域の見守りのおじさんが、皆さんが大きな声であいさつができることを大変嬉しいと言っていました」と全校生徒に伝えてくださいました。

すると次の日から「おはようございます」と子

どもたちから大きな声であいさつがありました。私も「おはようございます。いってらっしゃい」と投げかけると、子どもたちから「いってきます」と元気な声が飛び交うように変わり、今も継続しています。

さらに、小学生だけだったあいさつ運動が中学生や高校生、通勤者にも広がり、登校時の45分間という短い時間の中、人と人のつながりを実感できる時間となってきました。

今日、地域におけるつながりの希薄化が進み、住民同士の助け合いの力が低下し孤立を生み出してしまうと懸念されていますが、あいさつの飛び交う地域にその希薄化は存在しないと思います。それは「あいさつ」が人と人との懸け橋になっているからです。

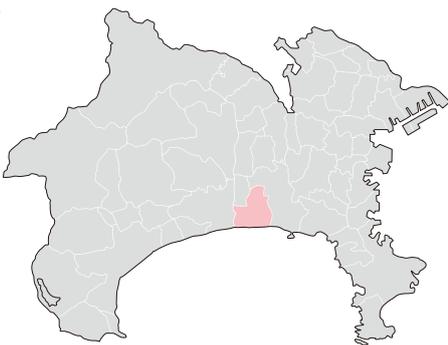
子どもたちに顔を覚えてもらえるために始めた活動でしたが、私たち児童委員が率先し「あいさつ運動」を推進することで、孤立する人たちを無くし、「みんなが笑顔で安全に安心して暮らせる街」を作っていくことにつながるのではないのでしょうか。

茅ヶ崎市茅ヶ崎南地区
民生委員児童委員協議会
会長 篠原 徳守



地区の概況

茅ヶ崎市 茅ヶ崎南地区



茅ヶ崎市 茅ヶ崎南地区



人口	14,905人
世帯数	7,009世帯
子ども（15歳未満）	1,812人
保育園・幼稚園	9園
小学校	2校
中学校	2校
民生委員児童委員	21人
うち主任児童委員	2人

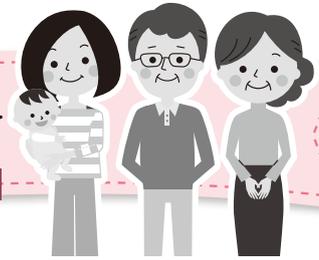
（令和2年4月1日現在）



私たちは地域の「子育て応援団」です

～児童委員、主任児童委員活動から～

平成30年9月号より



子育てサロン お友だち作りの輪！

麻生区柿生第3地区民児協は、川崎市の北部に位置し、周辺は緑が多く里山も残っており、自然に囲まれた住みやすい環境にあります。しかし、近年は駅周辺にマンションや住宅が建ち、都心に向かう交通の便も良いことから人口も増加、5万人、世帯数2万戸を超えとなり、町内会、自治会では多いと3千戸のところもあります。現在、民生委員・児童委員33名、主任児童委員2名の計35名が活躍しています。

子育てサロンは平成15年10月から「子育ておしゃべりサロン」として発足、平成17年4月に「子育てサロンはとぼっぼ」と名前がついて現在に至っています。

子育て中のお母さん、0歳から3歳ぐらいまでのお子さんを対象にした「地域で一緒に子育て」は、お母さんの仲間作り、息抜き、悩み相談等子育ての手助けになればと思っています。



地域で一緒に子育て。バルーンをゆらして楽しそう

「はとっぼっぼ」の運営は、子育て支援部会8名を中心に4グループに分け、各月を担当し、8月を除く毎月1回、午前中に開催しています。保育士、元保育士の指導のもと、手遊び・リズム遊び・パネルシアター・バルーン・紙芝居等を行います。

ゆるキャラ着ぐるみのお迎えお見送りは毎回好評です。12月のクリスマス会は、スタッフがサンタ・トナカイ等の着ぐるみで子どもたちと楽しんでいきます。毎月平均25組の参加もうれしい限りです。

この会から独立してグループを誕生させ、活動している所もあり、私達のやっていることが役立っています。

参加して下さる保護者を見て、幼児期の子育ては大変かもしれませんが楽しい時でもあり、「頑張ってるね」と声をかけながらも、私達スタッフも子どもたちから元気をもらっていることに感謝の気持ちでいっぱいです。



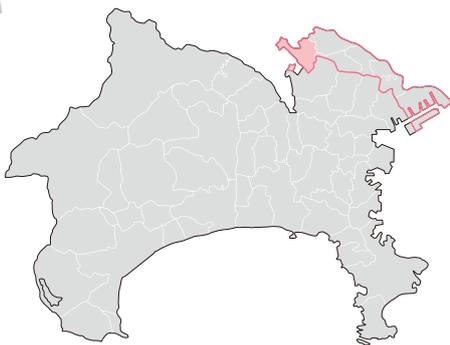
サンタにプレゼントをもらって嬉しそう

川崎市麻生区柿生第3地区
民生委員児童委員協議会
対間裕子



地区の概況

川崎市 麻生区 柿生第3地区



川崎市 麻生区 柿生第3地区



人口	52,048人
世帯数	22,180世帯
子ども (15歳未満)	8,498人
保育園・幼稚園	23園
小学校	5校
中学校	3校
民生委員児童委員	35人
うち主任児童委員	2人

(令和2年4月1日現在。人口及び世帯数、子どもの人数は3月31日現在)

私たちは地域の「子育て応援団」です

～児童委員、主任児童委員活動から～

平成30年10月号より



オレンジリボンで児童虐待防止を呼びかけて

オレンジリボンとは、児童虐待防止運動のシンボルであり「子ども虐待のない社会の実現」を目指す市民運動です。厚生労働省は毎年11月を児童虐待防止推進月間に定め、各都市、各地域をリボンのオレンジの色で埋め尽くそうと推進しています。オレンジ色は子どもたちの明るい未来を表しています。

2004年、栃木県小山市で4歳と3歳になる2人の可愛らしい兄弟が父親の友人から再三にわたって暴行を受け、息も絶え絶えの状態、橋の上から川に投げ込まれて幼い命を奪われる痛ましい事件がありました。この事件をきっかけに、二度と繰り返されることのないようにと全国でオレンジリボン運動が始まりました。メディアに映る方や学校の先生が胸にオレンジリボンをつけてくれているのを見ると嬉しいものです。

神奈川・東京開催の「オレンジリボンたすきリレー」は2007年から続いており、年々その輪は広がっています。今年も11月11日(日)、二宮(湘南コース)、鎌倉の大仏(鎌倉・三浦・横須賀コース)、渋谷駅前(都心・川崎コース)などからスタートしたランナーがバトンリレーしながら、横浜の山下公園を目指して走ります。沿道で声援を送ってくださる方だけでなく、多くの方々がそれぞれの中継地点で給水所やイベントを企画して子どもたちを集めて下さっています。

横浜市主任児童委員連絡会は、ゴールとなる山下公園で第2回から毎年参加しています。綿菓子の無料配布、趣向を凝らした手作りコーナーで、参加した子どもたちに楽しんでもらっています。



横浜市主任児童委員連絡会の皆さん



出展ブースの様子

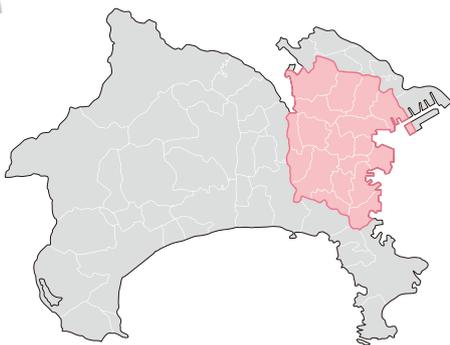
ゴール地点でのブースには、栃木県をはじめ多くの地域からも参加があります。ご当地オレンジリボンのグッズも入手することができ、収益はすべて児童虐待防止に役立てられています。子どもたちの笑顔を見るたびに、オレンジリボンで啓発をしなくても、両親や大人との豊かな関係の中で、すべての子どもがすくすくと育つ世の中になることを願ってやみません。

横浜市主任児童委員連絡会
主任児童委員 かとおの 上遠野 麗子



地区の概況

横浜市



横浜市



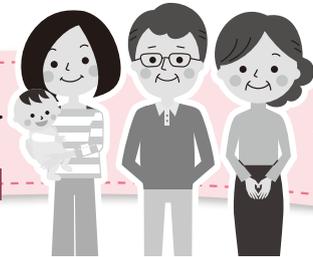
人口	3,753,771人
世帯数	1,723,409世帯
子ども (15歳未満)	767,688人
保育園・幼稚園	1,105園
小学校 352校	中学校 178校
義務教育学校 2校	特別支援学校 23校
民生委員児童委員	4,459人
うち主任児童委員	490人

(令和2年4月1日現在)

私たちは地域の「子育て応援団」です

～児童委員、主任児童委員活動から～

平成30年11月号より



ゆかいなコンサート

「ゆかいなコンサート」は、音楽に合わせて親子一緒に体操するイベントです。川崎区民生委員児童委員協議会・主任児童委員部会の事業として、川崎市教育文化会館の大会議室で年1度開催しています。9年目を迎える今回は、300名ほどの参加をいただくまでに広がりました。

1回目から、NHK・Eテレ番組「おかあさんといっしょ」の歌のお姉さんをイメージしたステージを実施してきましたが、回を重ねる中で内容を変えてきています。3年前より、行政や地域の方々と一緒に、



音楽に合わせて体操する親子の様子

区の実行委員会
が主催する「かわさき区子育てフェスタ」の中で開催するよう
になりました。

開催のきっかけは、主任児童委員の存在を地域の「子育てママパパ」に知っていただくことでした。近年増えている子育て問題の解決に向けて、子育てに関する情報提供や「子育てママパパ」同士が知り合える場である「子育てサロン」など、私たちがお役に立てる活動があるからです。イベントを通じて、私たちが相談に乗れることを大勢の「子育てママパパ」に紹介しています。

このイベントでは、親子での楽しい時間を過ごしてもらうための工夫をしています。

まず、入場の際に一人一人にパンフレットを配ると共にお声掛けをして、私たちの顔を知ってもらうことで安心してもらいます。入場するとすぐに、お花紙や折り紙を使った装飾で覆われた会場が視界に広がり、一気に普段とは違う特別な気持ちに引き込みます。



フェスタの会場内に掲示した各地域の子育てサロンの紹介

そして、NHK・Eテレ番組「いないいないばあっ!」で体操指導スタッフをされている藤原明美先生が、元気を引き出す綺麗な声で会場一体を盛り上げてくれます。

このイベントを素敵な思い出の一つとして、親子交流を増やすきっかけにしてもらえればと思っています。

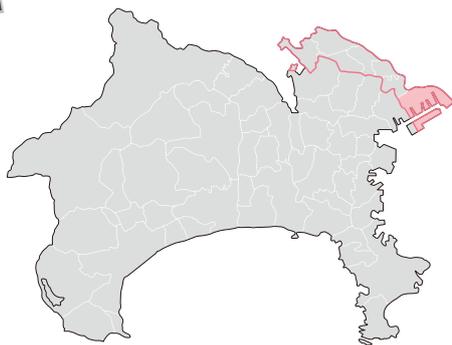
来年は10年目と節目の年でもあるので、より多くの「子育てママパパ」に知って
もらいたいと思っています。



川崎市川崎区民生委員児童委員協議会
主任児童委員部会
主任児童委員 清水 仁子

地区の概況

川崎市 川崎区



川崎市 川崎区



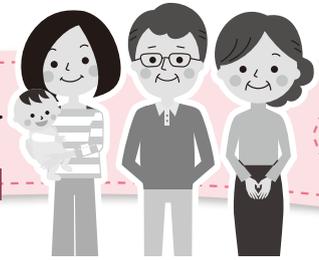
人口	235,373人
世帯数	129,041世帯
子ども(15歳未満)	26,339人
保育園・幼稚園	121園
小学校	20校
中学校	11校
民生委員児童委員	263人
うち主任児童委員	19人

(令和2年4月1日現在。人口及び世帯数、子どもの人数は3月31日現在)

私たちは地域の「子育て応援団」です

～児童委員、主任児童委員活動から～

平成30年12月号より



小学校の登下校見守り隊

私たちは「川尻小学校安全ボランティア団体」原宿地区の会員です。学校から登録・認定された名札を付けて、各地域で児童の登校集合場所から川尻小学校までの登下校指定通学路内にある横断歩道に立ち、列を成して渡る児童の誘導及び安全見守りをしています。



横断歩道で児童を見守る様子

活動の目的は、以下の3点です。

- ①児童が犯罪に巻き込まれないように未然に防止する事
- ②地域の連帯感を作り出し、地域で児童を守る意識を高める事
- ③不審者や犯罪を発見した場合の警察等への通報

各隊員の活動場所によって、交通量、特徴、条件、注意事項等が違ってきますので、月に2回の懇



小学校の先生やボランティアが集まり情報交換を行う懇談会

談会の席で、学校の代表者にも出席いただき、学校側からの依頼事項及びボランティア団体からの依頼事項等の情報交換を行っています。

また、ボランティア団体の紹介という形で、登校終了後に体育館で児童らに全員の顔を覚えてもらう行事を年1回行っています。

私の活動している場所は、朝の集合場所の公園の入り口の道路付近ですが、津久井街道の橋本方面への抜け道となっているために車が多く入ってきます。早めに集合場所へ行き、児童に車の通行の声掛け、朝の「おはよう」の声掛けを行っています。初めは返事が返って来なかったあいさつも、今では児童からの「おはよう」が先になり、通勤等で顔を合わせる大人たちとのあいさつも日課となってきました。

また、当地区では児童の親御さんたちが黄色い旗をバトン代わりに、交代制で朝の誘導見守りをしており、大変助かっています。



見守りには児童の親御さんも参加

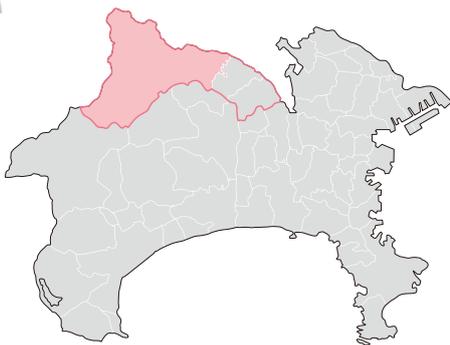
今では地域のお付き合いには欠かせない活動となっています。

相模原市城山地区
民生委員児童委員協議会
会長 伊藤 勉



地区の概況

相模原市 緑区 城山地区



相模原市 緑区 城山地区



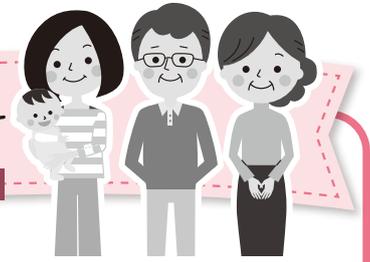
人口	23,457人
世帯数	10,276世帯
子ども(15歳未満)	2,819人
保育園・幼稚園	6園
小学校	4校
中学校	2校
民生委員児童委員	42人
うち主任児童委員	2人

(令和2年4月1日現在。民生委員児童委員数及び主任児童委員数は10月1日現在)

私たちは地域の「子育て応援団」です

～児童委員、主任児童委員活動から～

平成31年1月号より



子どもたちとの楽しい交流「ざま遊友クラブ」

都市化による遊び場や自然の減少、少子化、塾・習い事の比重の増加、テレビゲームの普及・浸透など、子どもたちをとりまく環境やその中での生活は大きく変化してきました。

一昔前では考えられないような豊かなものに囲まれながら、一人で遊ぶ子どもや友達とも家の中で遊ぶ子どもが多く、外遊びが減少するとともに友達との外での遊び方を知らない子どもが増えています。特に放課後に、地域で“のびのび”と集団で遊ぶ機会が減少しています。



マシュマロサンドが焼きあがるのをまだかまだか見つめる子どもたち

そこで、座間市では平成11年度から子どもたちに「あそび場」「仲間」「まなびの機会」を作り「生きる力」を養おうと、市内小学校で「ざま遊友クラブ」

事業を始めました。小学校ごとに地域のボランティアの方々の協力を得て「ざま遊友クラブ実行委員会」が組織され、市から委託を受けてイベントを行っています。

遊友クラブを実施している小学校(平成29年度は8校)では、イベントを企画する「ざま遊友クラブ実行委員」やイベント開催時の子どもの安全を見守る「パートナー」として、地域の

方々、学校、保護者の協力をいただいています。私たち児童委員も遊友クラブのスタッフと一緒に、実行委員やパートナーとして事業に参加、協力しています。

遊友クラブは子どもたちのホームグラウンドである学校施設を開放し、年間を通しスポーツ・手作りおやつ・工作・お話し会・お花教室・絵



ニュースポーツ(バウンスボール)を体験して

手紙などの活動の場を設け、さまざまな世代の子どもたちの交流を図っています。

私の担当地区である座間小学校では、平成29年度にイベントを10回開催しました。児童委員にとっても、この事業に協力することで学校や子どもたちとの交流が図られ、子どもたちを身近に感じることができる良い機会になっています。

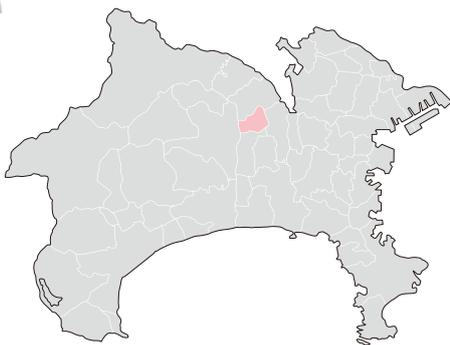
子どもたちが毎回楽しみに待ち、喜んで参加してくれるよう、実行委員ともども目をキラキラと輝かせて取り組んでいます。

座間市第六地区
民生委員児童委員協議会
会長 清水 春男



地区の概況

座間市 第六地区



座間市 第六地区



人口	19,245人
世帯数	8,738世帯
子ども(15歳未満)	2,425人
保育園・幼稚園	6園
小学校	2校
中学校	1校
民生委員児童委員	21人
うち主任児童委員	2人

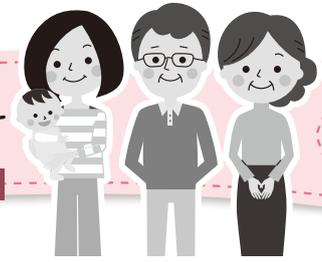
(令和2年4月1日現在)



私たちは地域の「子育て応援団」です

～児童委員、主任児童委員活動から～

平成31年2月号より



子どもたちの居場所を作りたい・「ふりーサロン5 (ファイブ)」の取り組み

横浜市西区第五地区は、横浜駅東口・西口の巨大商業地域を抱える地域ですが、この地区には公園が1つしかありません。

平成13年から、更生保護女性連盟の活動として「子育て支援活動」が民生委員・児童委員とのタイアップ事業としてスタートしました。1歳くらいからの保育園入所が増え、母親の勤務形態が常勤に変化している中、乳幼児の子育て支援は充実しましたが、小中学生の子どもたちへの支援が抜け落ちていることに気が付きました。学齢期に地域環境が整っていないのです。子どもたちが外遊びをする姿はほとんど見かけず、家でゲームをしている様子でした。

他地区では子ども食堂の開設が始まった時期でしたが、私たちはただ食事を提供するだけでなく、外遊びのできる場所を探しました。日頃から「親子ふれあい会」を開催している町内会館に隣接する広場が利用できれば、子どもたちが遊べる空間ができる、との思いから、サロン開設へと動き出しました。小中学校から家庭へ案内のチラシも配布してもらいました。これが「ふりーサロン5 (ファイブ)」の始まりです。

思いは的中しました。広場で生き生きと遊ぶ子どもたちは、みんな輝いています。おにぎりや唐揚げなどを楽しそうに食べる子どもたち

や、お母さん方が交流している姿に、地域での支え合いの大切さを痛感しました。外遊びを見守る



陸橋下の広場

男性の担い手は、地区社協のボランティア部会の協力を得ています。専門学校の学生さんたちの協力も助かります。子どもたちの親からもお手伝いして下さる方が出てきました。人と人のつながりは、地域の大きい宝物です。



テーブルを囲んで交流

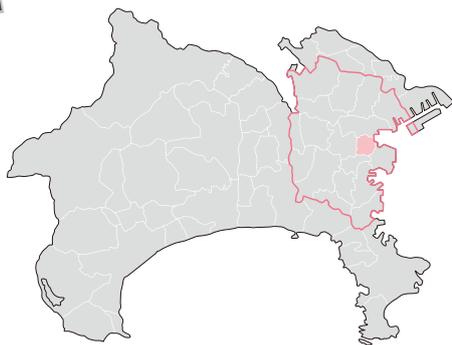
サロンを開催して3年が経ちました。月1回の開催を毎週開催にするのが夢ですが、費用や担い手の確保が課題です。今の活動をしっかり継続して次の世代へつないでいけたら、子どもたちの幸せにつながると信じてやっいていこう、と話合っています。担い手もサロンに来てくれている皆さんも、楽しく集い合えたら、最高の幸せです。

横浜市西区第五地区
民生委員児童委員協議会
会長 武田 容子

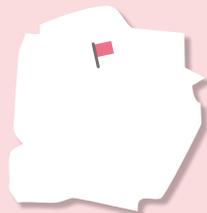


地区の概況

横浜市 西区 第五地区



横浜市 西区 第五地区



人口	17,856人
世帯数	10,774世帯
子ども (15歳未満)	1,737人
保育園・幼稚園	7園
小学校	1校
中学校	1校
民生委員児童委員	30人
うち主任児童委員	2人

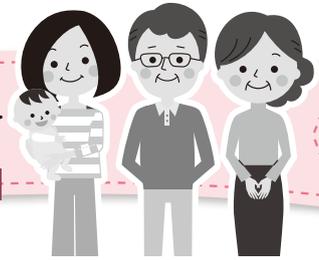
(令和2年3月31日現在)



私たちは地域の「子育て応援団」です

～児童委員、主任児童委員活動から～

平成31年3月号より



子どもの居場所 楽しくキッズ

楽しくキッズは「サポートセンター楽しく」の事業として、平成31年4月に開所します。サポートセンター楽しくは、相模台地区社協が運営する地域の福祉課題解決のための活動拠点。



サポートセンター楽しくの外観

民生委員・児童委員はこの活動の中心的役割を担っています。今回紹介する子どもたちへの学

習支援の取り組みは、児童委員、教師経験者、元PTA役員、公民館子ども指導員経験者などで構成する「子どもの居場所プロジェクト」チームを中心に進めています。

子どものために何をするのか、熱心に議論を重ね、以下のように決めました。

●どんな場所？

子どもたちが安心して気軽に立ち寄れる、リラックスできる、認められ必要とされる、自己肯定感を味わえる場所。

●誰のための場所？

勉強が苦手な自信がない、人間関係が上手くできない、家に閉じこもりがち、学校に居場所がないと感じている小学生のための場所。

●何をやるの？

工作・ゲーム・遊びを通して心を開き、学習意欲の向上を図ります。

●誰がやるの？

楽しくキッズ運営スタッフ（8名）、地域ボランティア、学生ボランティア

●場所は？

サポートセンター楽しくと相模台公民館

●活動頻度は？

毎月第2・第4土曜日の午後1時～3時

●ボランティア募集

募集チラシを自治会で回覧、相模原市と町田市にある大学へ呼びかけ

●「楽しくキッズ」説明会

説明会を開催し、15名のボランティア登録がありました。

開所に向けた今後の活動として、楽しくキッズを地域の子どもたちに広く知ってもらうために、小学校へ周知依頼などを行っていきます。

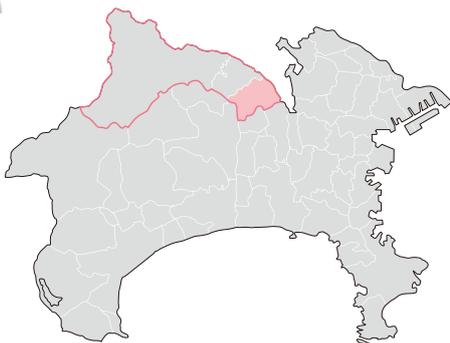


楽しくキッズのチラシ

相模原市相模台地区
民生委員児童委員協議会

地区の概況

相模原市 南区 相模台地区



相模原市 南区 相模台地区



	人口	45,092人
	世帯数	23,049世帯
	子ども（15歳未満）	4,687人
	保育園・幼稚園	10園
	小学校	4校
	中学校	3校
	民生委員児童委員	55人
	うち主任児童委員	3人

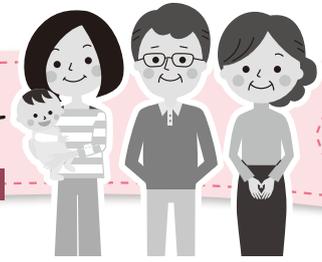
（令和2年4月1日現在。民生委員児童委員数及び主任児童委員数は10月1日現在）



私たちは地域の「子育て応援団」です

～児童委員、主任児童委員活動から～

平成31年4月号より



作って遊ぼう「伝承あそび」

当地区では、毎年夏休みが始まると間もなく、幼児、小学生を対象にした「伝承あそび」を行います。平成6年に主任児童委員制度が発足したのをきっかけに始めたものです。

この催しは、地域のおじいさん、おばあさんが子どもの頃に楽しんでいた遊びを今の子どもたちに伝え、実際に作り、体験してもらいながら子どもたちと交流を深めようとの思いで、ゆめクラブ(老人クラブ)と協働で始めました。

今では、ゆめクラブの方々の指導で「花ふきん」「竹トンボ」「お手玉」「紙飛行機」を作ったり、竹鉄砲・けん玉・羽根つき・コマ回し・メンコ・缶ぼっくり・べいごま・おはじきをしたり、遊びの種目も増えてきました。

初めて体験する子、多少親に教えられできる子、驚くほどけん玉が上手な子…。集まる子どもたちの昔の遊びの経験はさまざまですが、当日は100人を超える子どもたちがワイワイ、



キャーキャーとそれはにぎやかに、昔の遊びを大いに楽しんでいます。また、裁縫針を持ったことのない子どもが、ゆめクラ

ブの方々の指導のもとで花ふきんに一針一針真剣に刺繍をしています。そして帰りは、自分で苦労して作ったものを喜んで持ち帰ります。



三世代が同居する世帯が減少し、昔のことを教わる機会が少ない子どもたちにとって、この催しは南林間地区でとても有意義な世代間交流と評判になりました。

今では担当地区内にある小学校からの依頼もあり、小学校一年生に授業の一環として、我々民生委員・児童委員が「昔あそび」を教え始めて10年以上になります。

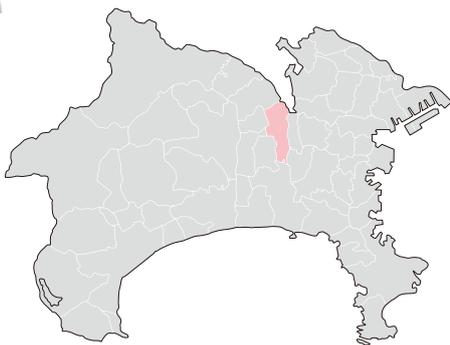
1年生に毎年教えているので、地域で子どもたちに会うと「あやとりを教えてくれた児童委員のおばさんだ!」「けん玉を教えてくれた児童委員のおじさんだ!」とあいさつしてくれるようになり、思わぬ喜びを感じています。

大和市南林間地区
民生委員児童委員協議会
会長 米津 正義



地区の概況

大和市 南林間地区



大和市 南林間地区



	人口	25,089人
	世帯数	12,499世帯
	子ども (15歳未満)	2,827人
	保育園・幼稚園	16園
	小学校	3校
	中学校	2校
	民生委員児童委員	34人
	うち主任児童委員	2人

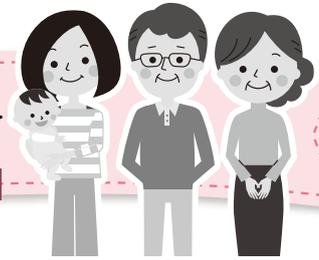
(令和2年4月1日現在。子どもの人数及び保育園・幼稚園数は10月31日現在)



私たちは地域の「子育て応援団」です

～児童委員、主任児童委員活動から～

令和元年5月号より



子育てサロン「バンビひろば」

川崎市幸区御幸西第1地区民児協は、民生委員児童委員27名と主任児童委員2名が3部会で活動しています。JR南武線の矢向駅と鹿島田駅の周辺にある平坦な住宅街と商業地域は、再開発により工場や社宅が高層マンションに建て替わり、子どもの人口が急増しています。

今年、子育てサロン「バンビひろば」（以下、ひろば）は開設から11年目を迎えました。昨年



バンビひろば 10周年の記念撮影

の10周年では（独）国際協力機構（JICA）の皆さまが参加したことで国際交流によるお祝いができ、その様子を写真で見る記念誌として発行しました。

ひろばは、区役所発行「おこさまっぷさいわい」「お散歩に行こうね」「こんにちは赤ちゃん訪問」のチラシを健康診断の時など、子育て家庭に手渡して広報しています。

毎月第1水曜の午前中に、老人いこいの家で児童部会12名とともに多くの民生委員児童委員がスタッフとしてひろばの運営に協力しています。生後2カ月から2歳くらいの乳幼児とお母さんが平均15組参加して、ふれあい遊びをしています。子育て中のお母さんが「ゆっくりでき

る場所に相談できる人がいる」「仲間づくりができる」「安心できる」子育てサロンを心がけています。

保健師の育児・健康相談や離乳食のお話、保育士の親子遊びや手遊び・パネル・エプロンシアター、お



保育士さんの楽しいエプロンシアター

誕生月の親子写真撮影や七夕、クリスマス会などが人気です。

子どもが親から離れ、スタッフの膝に乗る、抱っこされる、一緒に遊ぶなど、小さなふれあいがお母さんの笑顔と気持ちのゆとりを生み、親としての成長を垣間見ることがあります。赤ちゃんの成長を身近に感じることはうれしいです。小学校や保育園でも昔遊びを教えており、子どもたちからエネルギーをもらっています。

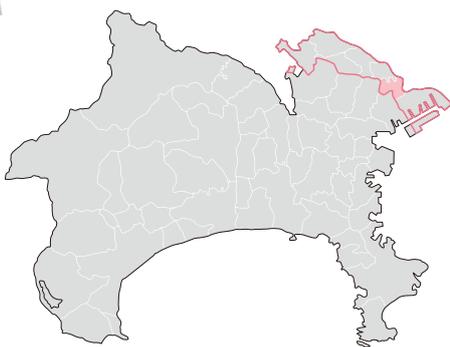
子育て世代や孫育て世代と民生委員児童委員の交流は、地域を見守る民生委員児童委員を知ってもらいたい大切な活動だと思います。日頃から、関係機関・団体の連携と協力に感謝しています。

川崎市幸区御幸西第1地区
民生委員児童委員協議会
網屋 英子



地区の概況

川崎市 幸区 御幸西第1地区



川崎市 幸区 御幸西第1地区



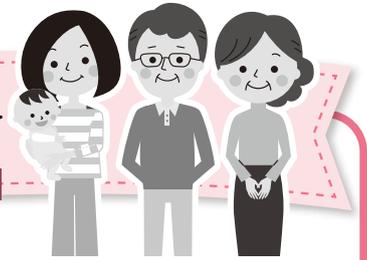
人口	28,342人
世帯数	13,100世帯
子ども（15歳未満）	4,526人
保育園・幼稚園	18園
小学校	2校
中学校	1校
民生委員児童委員	29人
うち主任児童委員	2人

（令和2年4月1日現在。人口及び世帯数、子どもの人数は3月31日現在）

私たちは地域の「子育て応援団」です

～児童委員、主任児童委員活動から～

令和元年6月号より



地域福祉を支えるジュニアボランティア

川井地区は、横浜市旭区の北西部に位置し自然が残る緑豊かな街で、福祉関連施設も多く点在しています。このジュニアボランティアは旭区で始まった事業で、横浜市で唯一全地区民児協で取り組んでおり、今年で20年になります。

事業の目的は、ボランティアとは自分の大切な時間を誰かのために使う活動であり「やってあげる」ではなく「喜んでもらえてうれしかった」といった感謝の気持ちの大切さを小学5～6年生と民生委員・主任児童委員が共に学ぶことにあります。

川井地区民児協のジュニアボランティア体験活動は、3つの小学校から毎年30名ほどの応募があります。夏休みから約半年間、ボランティア活動に取り組めます。「就任式」を皮切りに「地域ケアプラザの紹介と車いす体験」や「乳幼児との子守り体験」などをします。

特に子守り体験は、子育ての大変さを自身で体験し、両親への感謝の気持ちを養うことにつながります。



他にもパラスポーツである「車いすバスケット」を試合形式で体験します。地区内にある「補助犬協会」では、盲導犬や介助犬の信頼関係に感



動します。秋には「赤い羽根街頭募金」活動で三ツ境駅近辺にて募金活動を体験します。大きな声で呼びかける子どもたち

に寄附がたくさん集まります。「介護施設訪問」では入居者と紙芝居や童謡、折り紙等で交流を図り、入居者や職員から大変感謝されます。

そして12月には、これまで体験したことの「体験発表会」を行い、学んだことや感動を受けたことを絵や劇で発表します。この体験発表会の運営に子どもたちも取り組みます。最後にそれぞれ体験したことを「体験感想文集」にまとめ関係者に届けます。

ボランティアを体験した子どもたちが、少しでも地域福祉を学びボランティア精神を養い、将来本人にとってプラスになることを願っています。そして、事業に協力いただいた保護者の方、学校関係者、地域の皆さん、行政、区社協の方々に感謝申し上げます。

横浜市旭区川井地区
民生委員児童委員協議会

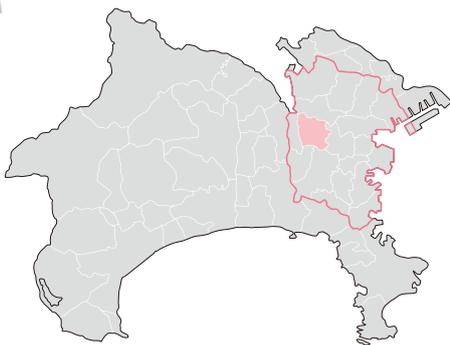
会長 阿部 恵司

※令和元年11月30日付退任



地区の概況

横浜市 旭区 川井地区



横浜市 旭区 川井地区



人口	13,880人
世帯数	6,522世帯
子ども (15歳未満)	1,811人
保育園・幼稚園	3園
小学校	4校
中学校	1校
民生委員児童委員	20人
うち主任児童委員	2人

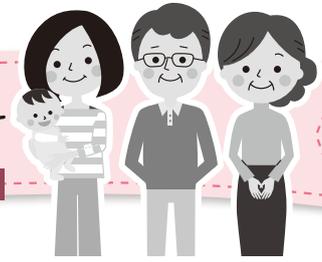
(令和2年4月1日現在)



私たちは地域の「子育て応援団」です

～児童委員、主任児童委員活動から～

令和元年7月号より



ボランティアスクール ～青年ボランティアへ～

15年ほど前、「大規模な災害が起こった時、日中地域で過ごす高齢者にとって、いち早く地域に戻ってきて助けになってくれるのは、行動範囲が一番近い中学生じゃない!?中学生にボランティアに参加してもらおう!」という意見と「ボランティアスクールを通して、自分たちが認められ、必要とされている=自己肯定感を高めてほしい」という思いから、横山地区でボランティアスクールが始まりました。

必要な事業費用は地区社会福祉協議会にお願いし、第1回ボランティアスクールでは消防署の協力を得て「救命救急の講習会」を行いました。参加者10人足らずのスタートでしたが、アンケートをとってみると「楽しかった」「自分でもできる自信がついた」「また参加してみたい」「ボランティアに協力してみたい」など、嬉しい回答が返ってきました。

現在も地区内の中学校にお願いして参加者の募集を行っていますが、応募がほとんどなく、児童委員がPTAの方と連携して家庭へ説明に伺ったり、部活動別に参加をお願いしたりと大変苦労しています。



その後、部活や勉強で忙しくなる中学生になる前、卒業直前の小学6年生を対象とした救命救急教室に参加してもらおうと同時に地域ボランティアを知ってもらう事業を始め、現在も継続しています。ボランティアスクールの内容も救命救急だけでなく、車いす体験や高齢者・障がい者疑似体験など毎年内容を検討しています。



その甲斐あって、参加者の中から青年ボランティア（中高生から青年まで）につながるケースも出てきており、

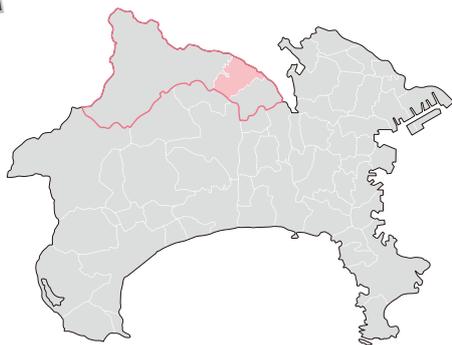


小6救命救急講習会、地区の敬老会、お祭り、運動会、防災訓練等々、児童委員や地域の皆様に見守られながら、頼もしく活動をしています。

相模原市横山地区
民生委員児童委員協議会

地区の概況

相模原市 中央区 横山地区



相模原市 中央区 横山地区



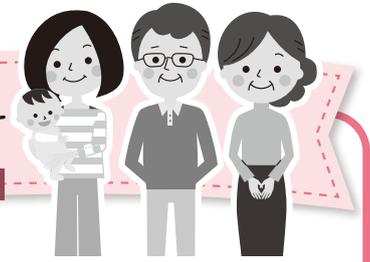
	人口	14,580人
	世帯数	6,603世帯
	子ども（15歳未満）	2,255人
	保育園・幼稚園	5園
	小学校	1校
	中学校	0校
	民生委員児童委員	19人
	うち主任児童委員	2人

(令和2年4月1日現在。民生委員児童委員数及び主任児童委員数は10月1日現在)

私たちは地域の「子育て応援団」です

～児童委員、主任児童委員活動から～

令和元年8月号より



お母さんたちと「絆づくり」

愛川町では9月に「ふれあい広場」、10月に「ふるさとまつり」と町を挙げた町民のお祭りが行われます。

7年前に町民児協も広く活動を知っていただく場として参加を決め、毎年工夫を凝らして、子どもたちとふれあうコーナーを展開しています。初めは何をやるかで悩み、他地域で開催している子どもたちとのふれあい行事を見に行き、民生委員・児童委員と主任児童委員間で何度も話し合いました。

いろいろな案の中で、今でも子どもたちに大人気なのは、段ボール箱を組み合わせた大きな迷路です。当日は、1人の子が何回も繰り返し入ったり、小さい子を優しく連れてハイハイしながら進んだりと担当の民生委員・児童委員が見守る中、楽しく遊んでもらうことができました。



毎回繰り返し使用することで少々傷んできたので、昨年のお祭りで最後にする予定でしたが、「来年も楽しみにしています！」と何組もの親子に声を掛けられ、今年はずぎはぎだらけに修理して出番を待つことになりました。

また、迷路の他に折り紙・竹とんぼ・吹き矢

や割りばし鉄砲・ビーズブレスレット作りコーナー等々、子どもたちが喜びそうな遊びを考えて提供しています。

愛川町には大勢の外国籍の人々が暮らしていますが、お祭り好きで、民児協が提供している日本の遊びに非常に興味を示し、多くの親子連れでにぎわいます。



さらに、主任児童委員は「お話コーナー」も行い、手遊び・紙芝居・エプロンを使った人形劇のコーナー等で幼児と保護者、小学生たちとのふれあいの機会を設けています。ここで顔見知りとなり、後日、子育て支援センターでお会いしたときに声を掛け合える「絆づくり」を大切にしています。

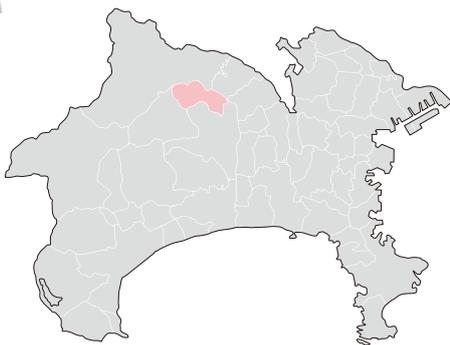
今年は8月から主任児童委員が中心となって、地域の公民館で新しく子育てサロンを開催するための準備をしています。これからも子どもたちが楽しく、安全に遊べて、お母さんたちの情報交換ができる場のお手伝いをしていきたいと思います。

愛川町民生委員児童委員協議会
主任児童委員連絡会代表
甘利 敦子



地区の概況

愛川町



愛川町



人口	40,119人
世帯数	18,391世帯
子ども(15歳未満)	4,322人
保育園・幼稚園	13園
小学校	6校
中学校	3校
民生委員児童委員	64人
うち主任児童委員	5人

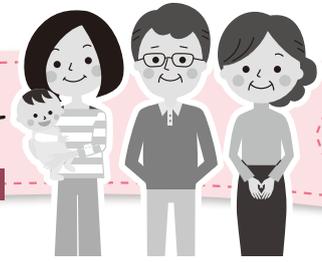
(令和2年4月1日現在)



私たちは地域の「子育て応援団」です

～児童委員、主任児童委員活動から～

令和元年9月号より



子育てサロンでほっと一息しましょ！

川崎市中原区、特に武蔵小杉はタワーマンションが次々と建ち、人口が急増しています。私の所属する住吉第1地区はその隣の地区で、やはり子育て世代が増えているように思います。

今年16年目の子育てサロンは毎月第4火曜日、8月と12月を除き年10回開催しています。民生委員児童委員が運営しており、0歳から1歳半までの親子さんや妊婦さんを対象に、毎回60組前後が参加する盛況ぶりです。市のいこいの家を貸し切りで利用できるのも、会場には恵まれています。それでもかなり混雑し、ねんねの乳児さんと歩き回る幼児さんは、なるべく席を分けるなど、事故やけががないよう気をつけて運営しています。

毎回、近隣の協力保育園の保育士による親子あそびや、区役所保健師の個別相談があり、離乳食や歯科衛生の学習会、救急救命講習会もそれぞれ年に1回ずつ開催します。特に乳幼児救急救命講習は大変関心が高く、毎年70組を超える参加者が熱心に誤飲の対処や心肺蘇生法の実技体験をします。



消防署員の指導で胸骨圧迫を体験

昨年初めて取り入れたヴァイオリンのミニコンサートは、お母様方はもちろん、赤ちゃんも心地よさそうにしており、生演奏のα波効果があったようです。



ヴァイオリンのコンサート

特別なイベントはあまり行わず、自由におしゃべりする時間を作り、参加者の皆さんが愚痴をこぼしたり、情報交換をできるようにしたりしています。私たちのサロンは、とかく孤立しがちな子育て中の親子さんが、ほっと一息ついて、くつろげる場として運営しています。初めて参加した方が帰るときにはお友達を見つけていたり、笑顔だったりすると、こちらもほっとします。

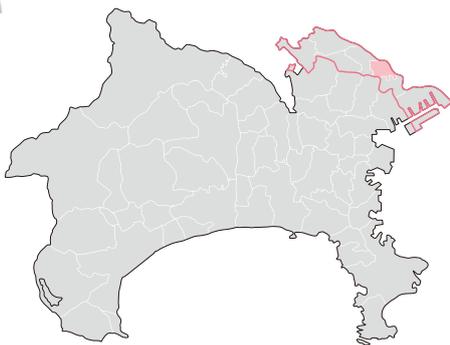
これからも子どもは地域の宝として、みんなで見守り子育てを応援していくため、子育てサロンを運営していきたいと思っています。

川崎市中原区住吉第1地区
民生委員児童委員協議会
主任児童委員 金田 幸子



地区の概況

川崎市 中原区 住吉第1地区



川崎市 中原区 住吉第1地区



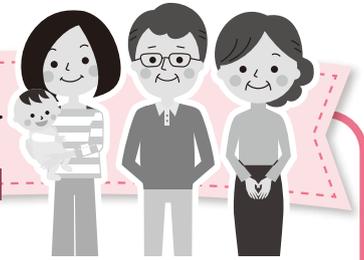
人口	38,833人
世帯数	19,877世帯
子ども(15歳未満)	5,226人
保育園・幼稚園	25園
小学校	2校
中学校	1校
民生委員児童委員	41人
うち主任児童委員	2人

(令和2年4月1日現在。人口及び世帯数、子どもの人数は3月31日現在)

私たちは地域の「子育て応援団」です

～児童委員、主任児童委員活動から～

令和元年10月号より



「中田子育てサロン」～ママたちの息抜き場～

横浜市泉区中田地区民児協は、36名の民生委員・児童委員（主任児童委員2名含む）で活動しています。横浜市の郊外で市営地下鉄も通る交通の便も良く、恵まれた環境の中にあります。

平成15年11月、「中田子育てサロン」が先輩委員のご努力により、踊場地域ケアプラザをお借りして産声をあげました。中田地区に居住する乳幼児と保護者を対象に、子どもたちの友達作り、お母さん同士の情報交換、交流の場として開設しました。

このサロンでは、誕生日のお子さんに歌のプレゼント、歯科衛生士の歯みがき指導と相談（小児用歯ブラシをプレゼント）、ヘルスメイトによる乳児食のお話と試食、リトミック、手遊びなど毎月メニューをかえて行っています。クリスマス会では男性委員が扮するサンタさんの登場に大喜びです。



「ママたちの息抜き場」としては、ママたちだけ



でティータイムをしてもらいます。委員と遊ぶ子どもたちの声を聞きながら

お茶を飲み、友達作りや悩みを話し合うことができ、ホッとした時間のように好評です。

昨年11月には、サロンの15周年のお祝いの会を開催し、お呼びした歴代の先輩委員とは思いつく出話に花が咲きました。サロンを卒業した子どもたちは延べ5千人を超え、素敵に成長していることでしょう。

民生委員・児童委員は、地域の子育て世代から高齢者世代までの幅広い方々のサポート役です。少子高齢化が進んでいますが、子どもたちは何にも代えがたい「宝」です。この「宝」と「宝」を育てる保護者を孤立させないよう、私たちが見守り、手助けできる喜びをこの「中田子育てサロン」で味わっています。そして保護者からの「ありがとう」の一言で私たちも勇気づけられます。

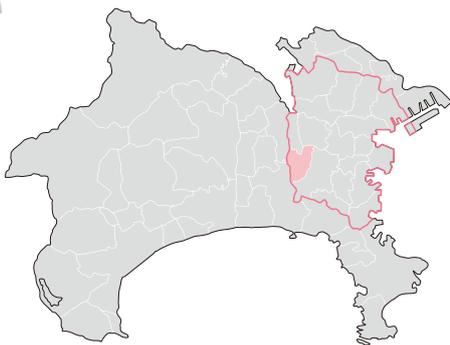
これからもこの「中田子育てサロン」は、立ち上げに携わった先輩委員の想いを大切に、地域の方々の力を借りながら、子どもたちの笑顔あふれるサロンとして、委員一同末永く続けていきたいと思っています。

横浜市泉区中田地区
民生委員児童委員協議会
副会長 一瀬 照美



地区の概況

横浜市 泉区 中田地区



横浜市 泉区 中田地区



人口	33,063人
世帯数	15,258世帯
子ども（15歳未満）	4,273人
保育園・幼稚園	12園
小学校	3校
中学校	1校
民生委員児童委員	35人
うち主任児童委員	2人

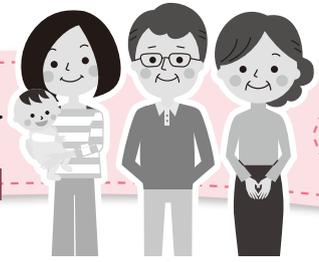
（令和2年4月1日現在。人口及び世帯数、子どもの人数は3月31日現在）



私たちは地域の「子育て応援団」です

～児童委員、主任児童委員活動から～

令和元年11月号より



地域みんなで見守る藤野の子どもたち

「かわいいわね」

「ホントね。何カ月ぐらいかしら」

赤ちゃん連れのお父さんやお母さんを見かけるとうれしい気持ちになります。

中央自動車道から見える野外アート作品「緑のラブレター」で知られる藤野地区は、県民の水がめである相模湖が中央部にあり、自然に恵まれた土地です。しかし、子どもの数は減少しており、以前は地区に10校あった小学校も、現在では3校に統合されました。

そんな地域で生まれたお子さんとその家族をお祝いしたい！応援したい！という思いから、平成26年に「ぽっかぽかぬくもり支援事業」を始めました。開始するにあたっては、隣の相模湖地区ですでに実施されていた「こんにちは赤ちゃん！さがみこ“ぬくもり”支援事業」を参考にして、相模湖地区の主任児童委員や社協の方々からいろいろ教えていただきました。

出生届を出しにきた方には保健師さんが、近所で赤ちゃんが生まれた時には児童委員がこの事業を紹介しています。申し込みされた方のお宅に担当の児童委員と主任児童委員で訪問し、



「おめでとう」の思いとともに、ボランティアさん手作りのおもちゃなどを届けています。そこで私たち児童委員を紹介し、親子サロンなどへのお誘いもしています。今年度は、10月現在で7家族のお宅を訪問することができました。

また、児童部会では毎年活動計画を立て、最近では地域の駐在さんが講師となる小学校の安全教室に参加したり、絵本の読み聞かせなどで子どもたちと交流したりしました。



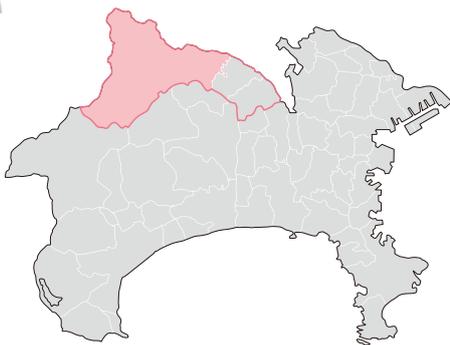
藤野では、各学校や地区に5カ所ある駐在さんにも児童委員の活動にご理解とご協力をいただいています。広い地域で育つ藤野の子どもたちを、地域みんなで見守っていきたいと思います。

相模原市緑区

藤野地区民生委員児童委員協議会

地区の概況

相模原市 緑区 藤野地区



相模原市 緑区 藤野地区



	人口	8,286人
	世帯数	3,685世帯
	子ども (15歳未満)	706人
	保育園・幼稚園	2園
	小学校	3校
	中学校	1校
	民生委員児童委員	30人
	うち主任児童委員	2人

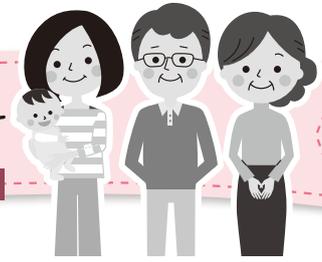
(令和2年4月1日現在。民生委員児童委員数及び主任児童委員数は10月1日現在)



私たちは地域の「子育て応援団」です

～児童委員、主任児童委員活動から～

令和元年12月号より



子育てサロン「まなっこひろば」で遊ぼう

「おはよう」「いらっしゃい」「今日はお誕生日会だね」町民センターの一室にある「まなっこひろば」に、今日も元気に子どもたちがお母さんや家族の人と一緒にやってきます。

私たち真鶴町民児協は、児童委員13名、主任児童委員1名で、子育て支援の一つとして「まなっこひろば」（以下、ひろば）の活動に取り組んでいます。

暑い日、寒い日、雨の日でも、子どもたちがのびのびと室内で遊べる場所、親子が自由に交流できる場所が欲しいという乳幼児のいるお母さん方の切実な声をきっかけに、民児協では主任児童委員が中心となり、社会福祉協議会、町の健康福祉課と連携し、実行委員会を立ち上げ、平成24年にひろばがスタートしました。

部屋には、おもちゃや絵本などがあり、月曜日（休館日）以外は自由に利用できます。

毎週水・木曜日は、私たちが当番で保育士と共に参加し、子どもたちを見守ったり、遊び相手になったり、お母さん方と子育てや最近の話題について話をしたりします。子どもたちが



「今日はどんなお話かな？」絵本の読み聞かせに子どもたちは注目

のびのびと遊べる場であるとともに、お母さん同士の交流の場、ホッとくつろげる場となるよう心がけています。

また、お誕生日会や衣類のリサイクルフェア、子育て応援講座（救急法など）等のイベント、



何かあったときのために、お母さんたちがAEDの使い方を学ぶ

子育て情報に関するチラシや冊子などの発信等、お母さん方の思いや願いに寄り添う場になるように努めています。

お誕生日会では、手遊びや体操、紙芝居などを楽しみ、お誕生月の子への手形足形などのプレゼントやハッピーバースデーの歌などに、親子、スタッフ皆の笑顔が広がります。子どもたちの成長をお母さん方と共有できるのは大きな喜びです。

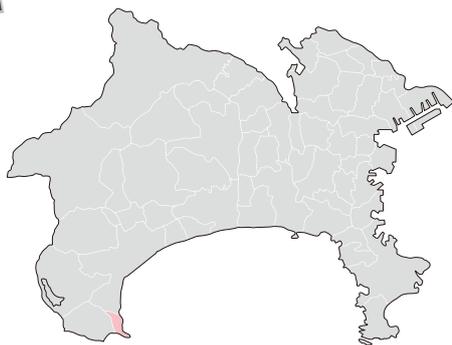
今後も皆が楽しめる広場を目指して明るく元気に活動していきたいと思ひます。

真鶴町民生委員児童委員協議会
会長 横山 公



地区の概況

真鶴町



真鶴町



	人口	7,161人
	世帯数	3,438世帯
	子ども（15歳未満）	483人
	保育園・幼稚園	3園
	小学校	1校
	中学校	1校
	民生委員児童委員	14人
	うち主任児童委員	1人

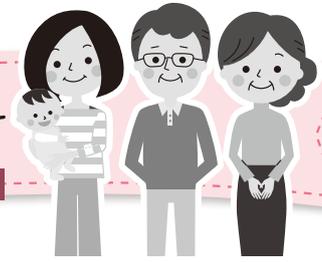
（令和2年4月1日現在）



私たちは地域の「子育て応援団」です

～児童委員、主任児童委員活動から～

令和2年1月号より



子育て支援は私たちも元気をもらいます

橘第3地区は畑や林、小高い丘が多く、戸建住宅と大小の公営団地、大型マンションが混在している地域です。横浜市都筑区に隣接する久末地区に、地域住民の自主的な学習・文化活動の拠点として設立された「プラザ橘（高津市民館・高津図書館橘分館）」（以下、橘分館）があり、そこでさまざまな子育て支援活動を行っていますのでご紹介します。

●子育てひろば

橘分館の主催で、4・8月以外の毎月第2金曜日の午前中、0歳～就学前の子どもと保護者が対象です。友達づくりをしたり、地域のママ同士のおしゃべりや情報交換ができ、子どもが楽しく遊べるフリースペースとなっています。

ひろばに参加するママ4～5名がスタッフとなって企画・運営し、私たちは運営の助言やサポート、事故のないように見守りをします。



●あつまれ^{ワン}1キッズ、あつまれ^{ツー サン}2・3キッズ

高津区公営保育園、高津区役所保育所等・地域連携担当の主催で、橘分館と高津区民生委員児童委員協議会が共催している取り組みです。

4・8月以外の各月に1回行われ、「あつまれ1キッズ」は第1火曜日の午前中に1～2歳児と保護者を対象に、「あつまれ2・3キッズ」は第3木曜日の午前中に2～3歳児と保護者を対象にしています。



あつまれ1キッズの様子(コンサート)



あつまれ2・3キッズの様子(運動会)

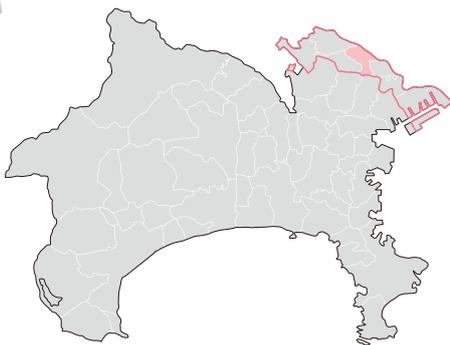
だれでも自由に参加できる形式で、保育士を中心に親子で体操、年齢にあった遊び、なかよしタイムでは子育て情報の提供・交換、仲間づくりのきっかけ作りなどを行います。私たちも輪に入り、おしゃべりやときに助言を行い、また事故のないように見守り、サポートします。

「たのしかった、またね、バイバイ」とハイタッチをして帰っていく親子を見送る時、ホッとするとともに、活動のやりがいを感じます。これからも、地域の子育てのお手伝いをしてまいります。

川崎市高津区橘第3地区
民生委員児童委員協議会
児童青少年部 採女 操

地区の概況

川崎市 高津区 橘第3地区



川崎市 高津区 橘第3地区



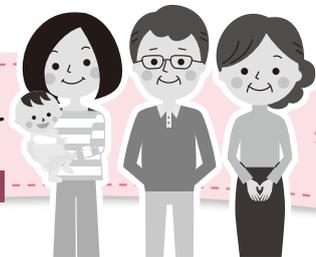
人口	32,494人
世帯数	14,173世帯
子ども(15歳未満)	3,964人
保育園・幼稚園	5園
小学校	1校
中学校	0校
民生委員児童委員	30人
うち主任児童委員	2人

(令和2年4月現在。人口及び世帯数、子どもの人数は3月31日現在。)

私たちは地域の「子育て応援団」です

～児童委員、主任児童委員活動から～

令和2年2月号より



オレンジリボンたすきリレー2019

私たち横浜市主任児童委員連絡会では、毎年「オレンジリボンたすきリレー」を応援しています。児童虐待が毎日のように報道される中、私たちの願いは、多くの方々に現状を知っていただき、こどもたちの笑顔を守る事です。

今年10月27日(日)、晴天の中で今年もオレンジリボンたすきリレーのランナーの皆さんをゴールでお迎えしました。今年度のゴールは、横浜グランモール公園。桜木町の真ん中でもあることから、この公園はとても賑わいます。家族連れが多く、またハロウィーンも近いことから、かわいい仮装をしたこどもたちもたくさんいてとても華やかでした。毎年、ランナーの皆さんをお迎えする瞬間は、どんな笑顔でゴールされるかわクワクワします。



私たちは、オレンジリボンを知っていただくために横浜市こども青少年局、横浜市社協と協働でブースを出展します。ブースでは、わたあめと楽しい工作を行います。いつもなかなか好評なんです。わたあめ作りは少し難しいのですが、きれいなわたあめが出来上がります。

また、工作のコーナーでは「おもしろロボット」「風船ロケット」「ひらひら蝶々」など、工夫を凝らした工作で今年も楽しんでもらうことができました。毎年、大人もこどもも楽しめるブースで主任児童委員をPRしています。



「オレンジリボン」「主任児童委員」を知っていただくことで、児童虐待防止の啓発につながればと思っています。こどもたちの小さな声を聴き逃さないように、保護者の苦しみの声を聞き漏らさないように、地域の一人として活動していきたいと思っています。

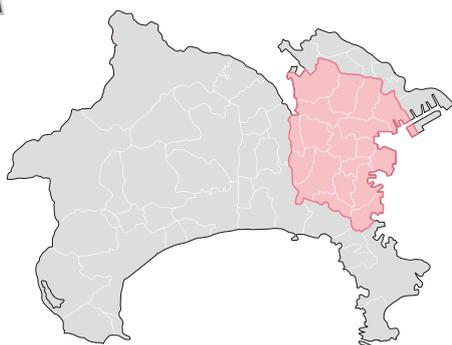
こどもたちの笑顔のため、「オレンジリボンたすきリレー」を私たちは走り続けます。

横浜市
主任児童委員連絡会
副代表 木村 博子



地区の概況

横浜市



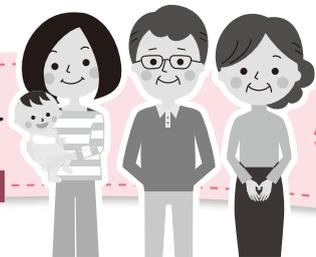
人口	3,753,771人
世帯数	1,723,409世帯
子ども (15歳未満)	767,688人
保育園・幼稚園	1,105園
小学校 352校	中学校 178校
義務教育学校 2校	特別支援学校 23校
民生委員児童委員	3,849人
うち主任児童委員	490人

(令和2年4月1日現在)

私たちは地域の「子育て応援団」です

～児童委員、主任児童委員活動から～

令和2年3月号より



児童委員活動がつくる地域の子育ち・子育てを支える風土

約2年にわたり、県内各地の児童委員活動の実践が紹介されました。

一般的に、民生委員が児童委員であることや、児童福祉を専門とする主任児童委員について、知る機会が少ないと思いますが、子どもの居場所づくりや子育てサロンなどの紹介された活動については、身近に感じるのではないかと思います。

●民生委員が児童委員を兼ねることの意義

もともと子どもや子育て家庭への支援は、家庭のプライバシーや親子関係に介入しづらい側面があります。

特に児童虐待や子どもの貧困など課題が重く複雑な場合は、親としてのあり方や責任を批判されるのではないかとという当事者の心配が、大きな壁をつくってしまいがちです。

児童委員として、子どもや子育て家庭への支援を通してできた顔見知りの関係が、その壁を低くし、早い時期に課題に気づき、子どもと親の双方に対する支援につながりやすくします。また、民生委員として高齢者を支援するなかで、孫や近隣の子どもの相談につながることもあります。

●地域社会に児童委員がいることの意味・役割

身近に寄り添っているから見える課題がある、制度につなげて解決するものと解決できないものがある、当事者の生きづらさや感情を受け止められるのは、それを肌で感じ取れるくら

い身近にいる人だけです。

現在、各地の民生委員児童委員協議会では、「全国児童委員活動強化推進方策2017」をもとに「わがまちならでは」の計画を策定し活動をすすめており、4つの重点を掲げています。重点1は「子どもたちの『身近なおとな』となり、地域の『子育て応援団』となる」、重点2は「子育て、子育てを応援する地域づくりを進める」、重点3は「課題を抱える親子を早期に発見し、つなぎ、支える」、重点4は「児童委員制度やその活動への理解の促進」です。

「身近なおとな」「子育て応援団」といった横のつながりと共に、子どもの成長や世代をわたる縦のつながりも大切です。そのためにも児童委員制度の理解を進め、地域住民や関係機関等との連携を深め、地域づくりの気運を醸成していくことが大切であると思います。

今後も、地域の子育ち・子育てを支える風土づくりの推進役として、特別公務員と地域住民という二つの性格をもつ民生委員児童委員、主任児童委員の活動が、期待されています。

社会福祉法人至誠学舎立川
理事 高橋 久雄
(至誠児童福祉研究所所長)



特集 (2~4面)

権利擁護と成年後見制度の利用促進に向けて
— 成年後見制度に関する実態把握調査報告書より —



▶ 今月の表紙 「健やかな子どもの成長を」願って

「私は子どもたちの笑顔で元気をもらっている近所のおじいちゃんだよ」と笑顔で話す、大和市下鶴間地区民生委員児童委員として活動している金子直勝さん。「民生委員は児童委員、どんな些細なことでも相談していいんだということを知ってもらえたら」と子育てに関することを気軽に相談でき、お母さんと子どもたちの仲間づくりの場である子育てサロン「ぴよんぴよんくらぶ」を児童委員の顔つなぎの場として役立っている。

【詳しくは12面へ】
〈撮影・菊地信夫〉

お母さんにも子どもにも仲間を!!

下鶴間地区民生委員児童委員協議会（大和市）

大和市は、本県のほぼ中央に位置する人口約23万人の自治体です。市内には8つの駅があり、地域のほとんどが駅まで15分以内の徒歩圏内にあります。

相談に応じる民生委員児童委員は275名（平成30年4月1日現在）で、そのうち主に児童の支援を行っている主任児童委員は22名おり、市内11の地区でそれぞれ活動しています。

北部に位置している下鶴間地区は、交通の利便性等により、近年は若年齢の住民が増加し、高齢者から子育て世代、そして子どもたちまでを含めた、今まさに新しい福祉システムの構築が求められている地域で、34名の民生委員児童

委員が活動しています。

そのような状況のなか当地区で開催している「ぴよんぴよんくらぶ」は、「お母さんにも子どもにも仲間を!!」をテーマにした子育てサロンです。

年間30回程度の子育てサロン活動には、民生委員児童委員全員が順番に参加しています。サロンで地域に大勢の知り合いができるため、保育園や幼稚園、小学校と成長したあとでも、仲間がいる安心感にもつながっています。遊んで楽しむことはもちろん、専門職も参加し、子どもの健康、生活情報のある活動も好評です。

この他にも、児童の様子や孤立

している親子が見守る「児童・親子の見守り巡回パトロール」を行い、子育てサロンの案内をする等、声かけをしています。

また、夏休みには小学校3〜6年生を対象に「子どもおもしろ科学教室」を開催しています。

児童憲章にもあるように、児童が人として尊ばれ、社会の一員として重んぜられ、よい環境の中で育てられるように、これらの活動を通して、民生委員児童委員としての私たち一人ひとりが地域の方々と信頼し、信頼される間柄へとなっていくこと、それが私たちの務めであると考えています。

そして、子育てサロン「ぴよんぴよんくらぶ」等の活動を体験した子どもたちが少しずつお母さん方の手を離れていったとき、子育てサロンに参加してくださったお母さん方が、私たちと共にこの活動に加わってくださること、それが私たちのささやかな願いです。

（下鶴間地区民生委員児童委員協議会）



子どもとお母さんたちの笑顔で民生委員児童委員は元気をもらっています



「子どもおもしろ科学教室」では、子どもたちも大人もみんな真剣です

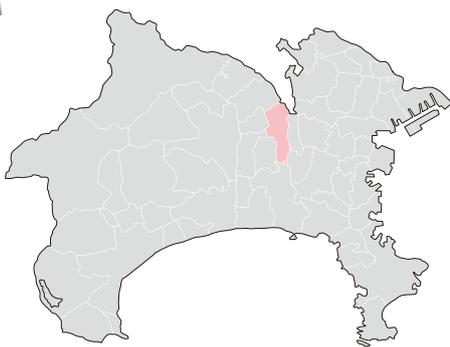
5月12日

民生委員・児童委員の日

民生委員制度は、第一次世界大戦末期、大正6（1917）年5月12日に防貧対策として岡山県で創設された濟世顧問制度を源とする、由緒ある制度です。全国民生委員児童委員連合会では、この制度が公布された5月12日を「民生委員・児童委員の日」と定めました。この機会に、民生委員・児童委員のことを知っていただく取り組みを進めていきます。

地区の概況

大和市 下鶴間地区



大和市 下鶴間地区



	人口	37,789人
	世帯数	15,379世帯
	子ども（15歳未満）	5,721人
	保育園・幼稚園	12園
	小学校	8校
	中学校	4校
	民生委員児童委員	32人
	うち主任児童委員	2人

（令和2年4月1日現在。子どもの人数及び保育園・幼稚園数は10月31日現在）

福祉タイムズ

2019

5

No.810

編集・発行  社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会

特集 生活支援コーディネーターの実践にみる地域づくりの新たな展開 … P2

NEWS & TOPICS

現場の声と制度・施策の課題から見える貧困の姿—横浜市生活自立支援施設はまかぜの取り組みから …P6

鎌倉市が取り組む共生社会の推進—実現を目指す条例が施行 …P7

県社協のひろば

福祉サービス第三者評価事業の評価基準が県全域共通に変わりました

新任職員へエール“ようこそ！福祉・介護の仕事へ”—新任福祉・介護施設等職員合同交流・研修会を開催 …P10



▶今月の表紙 楽しみながら活動をPR

相模原市の光が丘地区民生委員児童委員協議会では、5月12日からの「活動強化週間」に合わせ、公民館でPR活動を実施している。この日は役員の皆さんが、活動紹介パネルと来館者への手作りプレゼントの検討を行った。会長の菅沼総さん（右から2人目）を中心に活動を楽しみながらPRにも積極的に取り組んでいる。

【詳しくは12面へ】〈撮影・菊地信夫〉

いつもそばにいたいことを伝えたい

光が丘地区民生委員児童委員協議会（相模原市中央区）

光が丘地区は昭和30年頃までは平坦地の所々に桑畑が点在する農業地帯でした。昭和42年頃より分譲住宅などの開発が急速に進み、多くの住民が移り住みました。

現在では、開発当初に移り住んだ企業戦士も歳を重ね、高齢者が多い街になりました。

光が丘地区民生委員児童委員協議会（以下、地区民児協）では相談や訪問等の日常的な活動に加えて、困った時だけではない日常的なつながりづくり、困った時に相談しやすい関係づくりに力を入れています。5月12日の民生委員児童委員の日からはじまる「活動強化週間」では、PRイベントを毎年開催。地区民児協の活動パネルの展示のみならず、足を止めてパネルを見ている方へ声をかけ、



民生委員・児童委員による手作り品。PRイベントで手渡す



公民館常設のPRコーナー

活動リーフレットや手づくりの品を手渡しして、民生委員児童委員がいつでも相談できる存在であることを伝えていきます。そのPRは強化週間に限りません。地域住民が集う公民館にはPRコーナーを設置。いつでも民生委員児童委員の活動状況そして、担当地域と顔を見にすることができま

す。日常的なつながりづくりの代表的な取り組みとしては「お年寄りの集い」があります。

この取り組みは、地区社協、老人会、福祉団体と協力して、6月に、1人暮らしの70歳以上の方を小学校の体育館にお招きするものです。200名を超える高齢者と

昼食を取りながら、ボランティアの演芸を鑑賞し、地域の老人会が出演する舞踊や合唱を楽しむんでいます。企画立案は地区民児協で主に行い、昼食時には担当区域の民生委員が一緒に食事を取り、会

5月12日
民生委員児童委員の日

民生委員制度は、第1次世界大戦末期、大正6（1917）年5月12日に防貧対策として岡山県で創設された済世顧問制度に由来する、由緒ある制度です。

全国民生委員児童委員連合会では、この制度が公布された5月12日を「民生委員児童委員の日」と決めました。この機会に、民生委員児童委員のことを知っていただく取り組みを進めていきます。

話を楽しみながらさりげなく「困った時に相談ができる」関係を育みます。

また、民生委員制度100周年を機に、民生委員児童委員全員が壇上で民生委員の横断幕を掲げながら、民生委員の歌「花咲く郷土」を楽しく披露するのが慣例になりました。

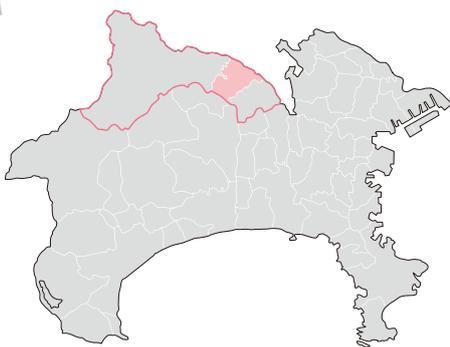
地域福祉が行政のサービス給付から住民主体の助け合いの仕組みづくりへと変化中、私たち民生委員児童委員は住民の困りごとを適切な制度・仕組みにつなげていく重要な役割を担っていくこととなります。そのために、私たちは優しさと思いやりを持ち、より地域の人の「いつもそばにいたい」ことを実践し、伝えていきたいと考えています。

（光が丘地区）

民生委員児童委員協議会

地区の概況

相模原市 中央区 光が丘地区



相模原市 中央区 光が丘地区

人口	26,881人
世帯数	12,048世帯
子ども（15歳未満）	3,064人
保育園・幼稚園	9園
小学校	4校
中学校	1校
民生委員児童委員	39人
うち主任児童委員	2人

（令和2年4月1日現在。民生委員児童委員数及び主任児童委員数は10月1日現在）



子育て応援団 活動ポートレート



横浜市

ジュニアボランティア
「乳幼児との子守り体験」



愛川町

町民のお祭りで段ボール箱を
組み合わせた大きな迷路



川崎市

子育てサロン「バンビひろば」
保育士さんの楽しいエプロンシアター



茅ヶ崎市

ザザンビーチに向かう通りに
面した小学校
登下校時のあいさつ運動



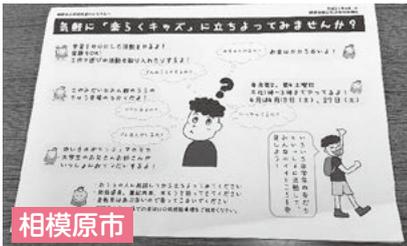
座間市

「ざま遊友クラブ」マシュマロサンドが
焼きあがるのを見つめる子どもたち



川崎市

子育てサロンで救急救命講習会
消防署員の指導で胸骨圧迫を体験



相模原市

活動拠点「サポートセンター楽しく」の
事業として「楽しくキッズ」を開所。
そのチラシ



川崎市

子育てサロン「はとぼっぼ」にて
保育士・元保育士の指導のもとバルーンあそびと12月のクリスマス会



川崎市



横浜市

「中田子育てサロン」でティータイム
ママ達の息抜き場として



横浜市

「ふりーサロン5 (ファイブ)」
陸橋下の広場で外遊び



横浜市

「中田子育てサロン」クリスマス会で男性委員が扮するサンタの登場に大喜び



相模原市

川尻小学校の登下校の見守り。親御さん達も参加



相模原市

「宮上学習室」分かりにくいところがあればボランティアが教えます



横浜市

ジュニアボランティアでパラスポーツである「車いすバスケット」を体験



相模原市

小学校の安全教室や絵本の読み聞かせで子どもたちと交流



相模原市

ボランティアスクールで車いす体験



横浜市

「オレンジリボンたすきリレー」ランナーの皆さんをゴールでお迎え



横浜市

「師岡こども学習室」スーパーボール作りに夢中



真鶴町

子育てサロン「まなっこひろば」で絵本の読み聞かせ



横浜市

「オレンジリボンたすきリレー」ゴールの山下公園で綿菓子の無料配布



川崎市

「かわさき区子育てフェスタ」会場内に掲示した各地域の子育てサロンの紹介



川崎市

あつまれ2・3キッズ運動会で仲間づくり



大和市

花ふきんに刺繍する子どもたち



私たちは地域の「子育て応援団」です
～児童委員、主任児童委員の活動から～

令和3年2月発行

社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会 民生委員児童委員部会

印刷：株式会社神奈川機関誌印刷所

